

よい豚のもとをたどればよい種豚



豚だけでなく、
人間も疾病対策!!

国産純粋種豚改良協議会だより

第 13 号 2021. 1. 13 発行

新年あけましておめでとうございます。国内で豚熱(CSF)の発生がつづいており、近隣諸国ではアフリカ豚熱(ASF)の再発、新型コロナウイルスの感染が拡大している等、豚だけでなくヒトを取りまく状況も今まで経験のない状況が続いてしまっています。今年はそういった状況に対応できるような『新しい養豚経営様式』も考えながら、どんな時も柔軟に生産継続できる環境と体制を整え、またインターネットシステムなど、様々な手段で情報交換も積極的に行っていきたいと思います。

国産純粋種豚改良協議会 令和 2 年度通常総会 開催

12 月 18 日、国産純粋種豚改良協議会の令和 2 年度総会が、一般社団法人日本養豚協会 事務所会議室(東京都渋谷区)にて開催されました。(一部 WEB 参加)

第 4 回目を迎えた総会では、東北大学大学院鈴木名誉教授並びに農林水産省生産局畜産部畜産振興課の松本畜産技術室長から開会の挨拶を頂いた後、令和元年度の事業実績及び収支決算に関する報告、監査結果の報告、令和 2 年度事業計画及び収支予算についての説明があり、全会一致で承認されました。また、今年度は役員改選であり第 2 期役員に再任が承認されました。(第 3 期役員については別途参照)

そのほか、協議会専用データベースシステムの運用開始と共に年度内にシステムを使った協議会遺伝的能力評価、種豚ランキングの公表、前年度の総会で承認された「銘柄豚認定に関する規則」の一部改訂案が提出され、こちらも実質事業開始となります。また、国の飼養衛生管理基準が大幅に改訂されたことによる協議会会員・オブザーバーが提出する衛生チェックシートの見直し案も承認されたほか、協議会会員章(バッジ)・会員証についても承認されました。

最後に、独立行政法人家畜改良センターの磯貝理事のご挨拶を同センター茨城牧場の新場長に代読して頂き、閉会となりました。そのなかで、本日の総会で国産純粋種豚の改良の推進について重要性が認識されました、とありましたがまさに、再認識と強い決意を皆さん感じたことと思います。

冒頭の鈴木名誉教授の挨拶では「海外産豚肉と国産豚肉の差別化を図っていくにはますます、国産純粋種豚による肉豚生産が重要になってくる」と喝を入れて頂き、来賓の松本畜産技術室長からは「我が国の国産純粋種豚の改良を進めるには国産純粋種豚改良協議会の枠組で、国とも連携して進めていくことが一番有効。」とご挨拶を賜りました。私達協議会だけではどうしても対応できない部分は、国の方にも協力を求めて参ります。

総会終了後には、出席者で意見交換会を実施し、改良促進のためのつなぎ評価の導入や、繁殖能力改良に相関性があると考えられる乳器・生殖器のデータ収集、また、現在の特徴ある肉質を維持しつつ能力向上をめざすための産肉能力検定に伴う案件等について、データ収集については協議会が率先して取り組んでいくこと、そのデータを管理分析して改良に役立てるためには専門知識や必要な機器導入補助も必要であり、これらには官民一体となって取り組む必要があることを認識しました。

いよいよスタートする国産純粋種豚改良協議会の種豚ランキング公表や、銘柄豚認定事業では国産純粋種豚を使った豚肉の優位性、さらには広く血統管理の重要性、それが改良の一步であること

も訴えていきたいと思ひます。

また、CSF や ASF についても、種豚及び種豚生産者をどう守るか、また種豚・精液の流通をスムーズに行い、遺伝資源である種豚を守っていくためにも引き続き国と一緒に対策を検討していく必要があるという意見があり、これに対して松本畜産技術室長からは、種豚事業者が新たな供給農場を設けるための支援メニュー等もあるため、各事業者の要望を丁寧に聞きながら種豚流通の円滑化を図ってきたいとの回答がありました。

※国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚については後程別途項目でお伝えいたします。

国産純粋種豚改良協議会 第3期役員

役 職	氏 名	所 属	
会長	星 正美	有限会社 星種豚場	再任
副会長	独立行政法人 家畜改良センター 理事	独立行政法人 家畜改良センター	再任
副会長	山田 芳男	株式会社 山田 B.F	再任
監事	桑原 康	農事組合法人 富士農場サービス	再任



開会挨拶をされる
東北大学大学院
鈴木名誉教授



会場の様子



WEB にてたくさんの参加を頂きました。

～国産純粋種豚改良協議会専用データベースシステム 改修について～

今回の総会でもご報告致しましたが、協議会専用のデータベースシステムの運用が開始となりました。年度内に現在までに集まっているデータにて、年度内に協議会内の遺伝的能力評価及び種豚ランキングの公表を行う予定です。

皆様には改めてご報告致します。もうしばらくお待ちください。

※なお、現在協議会専用データベースシステムへの新規データ入力を一時的にストップして頂いております。こちらについても再開次第、ご連絡致します。





国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚事業 開始します!!

令和2年度通常総会で国産純粋種豚改良協議会 銘柄豚認定規則の一部改訂も承認され、認定申請を開始致します。(今回、認定申請書式も同封しています!!)

血統管理が改良の基礎として国産純粋種豚の能力向上・維持管理に取り組んでいる当協議会、まずは血統管理が明確な肉豚であるかに重点を置いて銘柄豚認定をスタートすることになりました。

認定のランク分けについては下記表をご覧ください。

※認定のランク分けについて

消費者に国内で生産されている純粋種豚を利用している肉豚であることを証明するために、血統登録の有無を条件とします。

区分	表示	血統登録 (種豚登録及び子豚登記)	登録割合
Aランク	★★★	両親ともに登録済み	100%
Bランク	★★	片親が登録済み	50%
Cランク	★	父方、母方いずれかの祖父または祖母が登録済み	25%

・Aランク

両親ともに登録済み。例)三元交雑種(LWD)の場合、止め雄Dが登録済みで、F1母豚(LW)が登録済み(F1登記)、または両親(L・W)が登録済み。

・Bランク

片親が登録済み。

・Cランク

父方、母方いずれかの祖父または祖母が登録済み。例)三元交雑種(LWD)の場合、止め雄Dの片親が登録済み、または、F1母豚(LW)の片親(L・W)が登録済み。

なお、この認定銘柄豚を広く普及するためにロゴマークの公募を開始しました。募集要項は協議会ホームページにも掲載しています。会員・オブザーバーの皆様も是非、近隣の学校や関係機関へ広くお知らせ願います。

また、このロゴマークの明確な利用推進や悪用等防止のため利用許諾の制定も検討しています。登録商標などこういった案件に詳しい会員・オブザーバーの方いらっしゃいましたら(既に実施している銘柄豚の関係などで経験されている方など)、是非お知恵拝借願います。(事務局担当:湯浅まで)

「国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚」ロゴマークを募集いたします。 (募集要項)

下記のとおり「国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚」のロゴマークを募集し、審査により選定の上、国産純粋種豚改良協議会が認定する「国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚」の販売促進ツールや認定書・看板などに利用いたします。

令和2年12月18日

第1 募集内容

「国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚」のロゴマークの作成

※応募者が自身で創作した未発表のもので、他の著作物への使用や模倣をしていないもの

第2 国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚とは？

我が国の豚肉生産のもととなる種豚のなかでも、我が国日本において改良生産され、血統管理の明確な種豚を使って生産された豚肉です。このようにして生産された豚肉の美味しさ、さらに、しゃぶしゃぶやとんかつ等ご飯のおかずとなる、日本の食文化に合った「テーブルミート豚肉」であることを消費者の皆さんに広く知って頂き、「テーブルミート豚肉」生産を支える国産純粋種豚をオールジャパンで維持改良推進していくため、皆さんに「国産純粋種豚の応援団」になって頂くべく、「国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚」をあなたの食卓にお届け開始いたします。

くわしくは、国産純粋種豚改良協議会ホームページ(<https://buta-kairyo.jp/>)もご覧ください。

第3 選考結果及び商標権等の権利帰属について(よくお読みください)

採用作品 1 点

なお、採用作品含め上位 3 位入賞作品応募者には、賞品として国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚肉及び豚肉加工品(1~3 万円相当)を贈呈致します。

- (1)選定されたロゴマークの商標権等の権利は本事業の事業主体（国産純粋種豚改良協議会）の帰属となります。応募者は採用作品に対し、著作者人格権に基づく権利行使は行わないこととします。
- (2)採用者については、氏名・住所(市町村名まで)、学校名及び職業を公表させていただきます。
- (3)応募作品の返却はいたしません。
- (4)応募に伴う一切の費用は、応募者の負担とします。
- (5)応募頂いた方の氏名等の個人情報とは、作品選考以外の目的には使用しません。

第4 応募資格

日本国内にお住まいの方で、本事業推進にふさわしいロゴマークを提案頂ける方であればどなたでも応募できます。

第5 選定審査

提出されたロゴマークは国産純粋改良協議会(国産純粋種豚改良協議会 銘柄豚認定委員会)において公平かつ慎重な審査を行います。但し、審査において個別にヒアリングすることがありますが、内容については非公開とします。また、審査結果については当該応募者に文書で通知し、国産純粋種豚改良協議会公式ホームページ(<https://buta-kairyo.jp/>)でも発表します。

第6 応募方法

- ・応募用紙（別紙（A4 縦）をダウンロードあるいは印刷）を使用して、ロゴデザイン、ロゴデザインの説明、氏名、住所、電話番号、メールアドレス、及び職業（学生の場合は学校名）を記載して応募する。
- ・1人で複数作品の応募可（ただし、1枚の用紙に1点のみのデザインとする）
- ・データファイルまたは郵送での提出とする。データファイルでの提出の場合、応募用紙のファイル形式は「Word」又は「PDF」とし、「Word」の場合は、ロゴデザインのデータを「JPEG」または「PNG」で貼り付けて提出する。
- ・作品はカラーとし、色の制限はなし。ただし、用途により単一色（モノクロを含む）及び単一色の反転で使用する場合があります。

第7 募集期間及び応募・問い合わせ先

【募集期間】令和2年12月18日(金)～令和3年3月26日(金)

【提出先】

国産純粋種豚改良協議会 事務局 銘柄豚認定ロゴマーク担当係
(一社)日本養豚協会 担当:湯浅伸子
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-15 高栄ビル 2階
TEL:03(3370)5473 FAX:03(3370)7937
E-mail:kokujiyunkai-logo@pig-pins.com

「国産純粋種豚改良協議会 認定銘柄豚」ロゴマーク応募用紙

ロゴデザイン

ロゴデザインの説明（200 字程度）

ふりがな 氏 名			年 齢	
住 所	〒			
電話番号		メ ー ル アドレス		
職 業 (学校名、学年)				

飼養衛生管理基準(豚・いのしし) ガイドブックができました

今年改正された飼養衛生管理基準(豚・いのしし)について、ガイドブックができました。ガイドブックは、農林水産省ホームページにてPDFで公表されているほか、養豚生産者の皆さまには地元の家畜保健衛生所を通じて配布される予定です。

(参考)農水省ホームページ

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyou/index.html

中国及び ベトナムほか東南アジアと朝鮮半島に拡散した アフリカ豚熱(ASF)と 東海から関東・北陸・沖縄地域まで広がっている 豚熱(CSF)の防疫強化を！！

ASFは非常に厄介な病気で、国内への侵入は全力を挙げて阻止する必要があります。また、CSFの拡散防止のため衛生対策を徹底しましょう

ASFウイルスは中国及びベトナムほか東南アジア・朝鮮半島と拡散しており、いつ日本に侵入してもおかしくない状況です。国に対し、水際防疫の強化を要請していますが、国内養豚農場では防疫レベルを最高レベルに引き上げ、防疫強化をすぐに実施し国内への侵入を全力で阻止しましょう。

また、感染が広がっているCSFについても養豚経営の存続にも関わる疾病です。これ以上拡散しないよう飼養衛生管理基準を遵守し、農場の衛生対策を今一度確認いただき侵入防止に努めましょう。

国産純粋種豚改良協議会の現在の会員数は、生産者会員が23名、団体及び試験研究機関会員が当協会含め15名です。オブザーバー会員は5名となっております。正会員への変更手続き、新規入会をお待ちしています!!



国産純粋種豚ホームページにあなたの自慢の種豚の写真を掲載しませんか?お問い合わせは事務局まで。

『種豚・精液、肥育もと豚等の 導入・販売でお困りの生産者の皆様へ』

相談窓口を開設しました

国内で発生しております CSF 対策として一昨年からワクチン接種推奨地域においてワクチン接種が開始されました。

これにより、ワクチン接種した種豚等は非接種地域への移動が出来なくなり、この影響で従来の取引先から種豚・精液、肥育もと豚等の導入・販売が出来ずに困っているという相談が多数寄せられています。

JPPA では、国産豚肉生産への影響を少しでも緩和するため、種豚・精液、肥育もと豚等の導入・販売に関してのご要望、ご相談をお受けし、可能な限り対応して参りますので、情報をお寄せいただきますよう、ご協力のほどよろしくお願い致します。

なお、頂いた情報は個人名等を除いた形で他団体等とも共有し、効果的なマッチングを図っていきたいと考えています。

つきましては、種豚・精液、肥育もと豚等のマッチング用情報提供用紙を作成しておりますので、事務局までご連絡ください。

また、現状の顧客以外に配布可能な豚等がございましたら、この取組の一助となりますので、事務局まで情報をお寄せいただきますようよろしくお願いいたします。（情報提供用紙は JPPA ホームページでも提供しています。）

●お問い合わせ等 窓口：国産純粋種豚改良協議会 又は
（一社）日本養豚協会 改良部



事務局からのお知らせ

「国産純粋種豚改良協議会」は
平成 28 年 3 月 31 日、オールジャパンでの種豚改良を
目指して発足しました。只今、会員絶賛募集中です!!

★令和 2 年度 種豚導入補助事業 ご案内

事務局である一般社団法人 日本養豚協会では令和 2 年度も種豚導入補助事業の事業実施主体となりました。国産純粋種豚の能力底上げが目標の事業です。令和元年度も同様の事業があり、会員及びオブザーバーの方で事業参加されて、積極的に改良のための導入を行って頂きました。本事業は単年度事業ですが、平成 26 年度から続いている事業で、生産者間血縁構築にも有効に活用されています。せっかくの補助事業です。協議会の目標達成の為に是非、有効活用しましょう。お問い合わせは事務局の湯浅までお願いします。

★協議会内部での種豚交流について

改良のスピードアップの、ひとつの指標となる遺伝的能力評価精度向上を図るためには、協議会員間での血縁構築が重要となってきます。是非、会員間で種豚交流を実施しましょう。御連絡いただければ会員にお知らせいたしますので事務局までお願いします。是非、公式ホームページ・本日よりもご活用ください!!

★会員、絶賛募集中!!

より多くの種豚生産者に参加していただくことで、国産純粋種豚改良協議会の活動が盛り上がり、かつ、データがたくさん集まり、改良のスピードアップも狙えます。是非、入会をよろしくお願いいたします。協議会認定銘柄豚事業もスタートしました!!協議会についてのお問い合わせもお待ちしています。

★産肉検定・豚人工授精師資格取得等について

産肉形質改良のための素材となるデータ測定についても、積極的に実施をお願いしたいところですが測定機器が無いなどのお悩みについて、協議会一丸となって取り組んで行きたいと思います。また、最近非常に問合せが増えております、豚人工授精師資格取得や人工授精の講習会等、皆さんで情報交換を行いたいと思います。是非、事務局へお問い合わせ下さい。全体で対策を検討したいと思います。

★国産純粋種豚改良協議会だより について

普段なかなか集まることのできない、会員及びオブザーバーの交流の場としても是非ご活用ください。掲載希望記事や掲載希望コーナーなどの御提案をお待ちしています。事務局までどんどんお寄せ下さい。また、改良に関する質問なども受け付けております。

(例:会員及びオブザーバーの紹介コーナー、会員及びオブザーバーに関するトピックコーナーなど)

【事務局つれづれ】

先日ジャイアントパンダのシャンシャンに会いに上野動物園に行きました。
(※東京都に新型コロナ感染拡大予防のための緊急事態宣言が出される前です。)

2020 年末で中国に返還予定、コロナ対策で時間指定の入場制ということもありチケット予約に苦勞し、当日は立ち止まり禁止・撮影禁止で一瞬だけ見ることができました。美味しそうに笹の葉を食べるシャンシャン、可愛かったです。もう一度見たり、写真を撮りたい場合は、どこまで続くの？レベルのソーシャルディスタンスされた長蛇の列に再度、並ぶことになります。体力に自信がないので、大人しくあきらめ園内でシャンシャングッズを大人買いしました。

※その後シャンシャン返還予定日は新型コロナウイルスの影響を受け、今年の5月まで延期となりました。

シャンシャンの両親リーリー(父)、シンシン(母)はブリーディングローン制度(繁殖を目的とした動物の貸借契約)で中国から日本にきました。中国と東京都の取り決めで、両親と子の所有権は中国にあり、生まれた子どもはおおよそ2年で中国に返還する契約です。(契約内容は、動物種や2国間等によって異なります。)このブリーディングローンは、希少動物を扱う動物園や水族館では種の保存、また、新たな血統を取り入れて近交を防ぐ観点からも国内外で積極的に行われています。希少動物は、個々の動物園や水族館の所有物でなく日本の、ひいては世界共通の財産ととらえる考えによるものです。ブリーディングローン制度の実施により希少動物のペア飼育や群飼育が進み、たくさんの動物が繁殖に成功しています。動物種によっては人工授精等を利用した繁殖の試みも行われているようです。

展示動物と種豚では繁殖目的は異なりますが、貴重な遺伝資源を守り、次の世代に繋げていくという目的と、その種の保存に関わる方の絶え間ない努力と熱意は同じではないでしょうか。

これからも国産の種豚を守れるよう、協議会の活動を通じて貢献していきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



購入したシャンシャングッズたち
(手前からブランケット、ぬいぐるみ、クッション)